

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。
 本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。
 ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	脳卒中データバンクと多施設データベースを用いたくも膜下出血の研究:転帰予想と検証研究 Predict for Outcome Study of aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage (POST.SAH)
研究期間	2020年6月4日～2026年12月31日
対象患者	<ul style="list-style-type: none"> 2000年1月1日～2018年12月31日までに脳卒中データバンクへ登録された症例。 2000年1月1日～2019年12月31日までに以下対象施設のSAHデータベースに登録された症例。 対象施設(12施設):島根県立中央病院、国立循環器病センター、杏林大学、東海大学、東京慈恵会医科大学、埼玉医科大学国際医療センター、日本医科大学、高知大学、弘前大学、藤田医科大学、東京女子医科大学、倉敷中央病院
対象期間	2000年1月1日～2019年12月31日
研究機関の名称	島根県立中央病院、東京大学、国立循環器病センター、杏林大学、東海大学、東京慈恵会医科大学、埼玉医科大学国際医療センター、日本医科大学、高知大学、弘前大学、藤田医科大学、東京女子医科大学、倉敷中央病院
実施診療科	島根県立中央病院 脳神経外科
研究責任者	井川 房夫
意義・目的	SAHの転帰不良の原因として、発症時神経所見、年齢、くも膜下出血の程度、動脈瘤の部位、大きさ、治療法などがあげられます。その因子により転帰予想の研究はされていますが、詳細な予測は困難です。また、高齢者SAHの転帰は特に不良で、高齢者の予測が必要です。 一方、日本は世界一の高齢化社会となり、高齢者SAHの研究には適しているとも言えます。そこで、脳卒中データバンクと多施設のSAHデータベースを用いて、転帰予測モデルを作成し、検証します。
研究の方法 (試料・情報の利用 方法・他施設への提 供方法を含む)	脳卒中データバンクと多施設のSAHデータベースを利用して、「利用する試料・情報の項目」に示す項目を抽出し、解析します。次に、年代、性、年齢、部位などから変化を解析し、統計学的に検討します。
利用する試料・ 情報の項目	破裂脳動脈瘤患者の年齢、性、動脈瘤の性状(嚢状、解離、外傷性、感染性など) 発症前 modified Rankin Scale (mRS ^{※1}) score (1以下か、2以上か)、退院時mRS、 入院時WFNS ^{※2} 、Fisher CT grade (CT所見による分類)、治療方法(クリップ、コイル、 その他) 発症から治療(入院)までの日数(0,1,2,3,4日以上)、動脈瘤部位、動脈瘤サイズ (最大径mm)、既往歴(高血圧)、既往歴(糖尿病)、既往歴(脳卒中既往)等 ※1:脳卒中患者さんに対して主に機能自立度を評価する指標 ※2 くも膜下出血の重症度分類
試料・情報の 提供の有無	試料・情報の他施設への提供 あり・ <input type="checkbox"/> なし (ありの場合、海外の施設への提供 あり・なし)
個人情報の保護	当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。
結果の公表	投稿論文として公表予定です。
備考	

***** お問い合わせ先 *****
 島根県立中央病院
 脳神経外科 井川 房夫
 電話：0853-22-5111
